

平成23年度 第1回 四街道市交通問題連絡協議会 会議録（概要）

日 時：平成23年8月1日（月） 14：00～16：10

場 所：四街道市役所 新館5階 第1会議室

出席者 委員：榛澤会長、芦沢副会長、十二里委員、中島委員、中台委員、高橋委員
池田委員、花崎委員、山原委員、土屋委員（代理：竹門氏）、原委員
吉沼委員

欠席者 委員：石川委員、鈴木委員、花島委員、榊原委員、佐藤委員

事務局出席者：経営企画部政策推進課 大野課長、多田副主査、三好主任主事
（株）トーニチコンサルタント 星野部長、池寄主任、河合部員

傍聴者 : 5名

会議次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 市長挨拶
4. 委員紹介（職員紹介）
5. 議題
 1. 市内公共交通の現況について
 2. 市民等からの要望等について
 3. 公共交通のあり方検討業務
資料 3-1 市内循環バス「ヨッピー」利用状況アンケート（アンケート結果速報報告）
資料 3-2 市民アンケート調査計画
資料 3-3 今後の業務の進め方について
 4. その他

【事務局】定刻になりましたので、只今から、平成23年度第1回四街道市交通問題連絡協議会を開催いたします。はじめに会長よりご挨拶をお願いします。

【榛澤会長】—— 挨拶 ——

【事務局】ありがとうございました。続きまして、市長からご挨拶を頂きたいと思っております。

【市長】—— 挨拶 ——

【事務局】本日の出席者について、報告します。本日、委員12名の出席となっております。交通問題連絡協議会要綱第6条第2項に規定する過半数に達していますので、本日の会議が成立していることをご報告いたします。

【事務局】—— 委員紹介 ——

【榛澤会長】それでは、これより進行を務めさせていただきますので、よろしく申し上げます。議事に先立ち、はじめに傍聴希望者の方がいるか確認します。

【事務局】はい、いらっしゃいます。

【榛澤会長】会議の公開につきましては、議事運営に支障が認められる場合は非公開になりますが、本日の議事内容におきまして支障はないため、『審議会等

の会議の公開に関する指針』の「3. 会議の原則公開」の規定により公開とし、入室を認めたいと思います。また、会議資料につきましては、「審議会等の会議の公開に関する指針の解釈運用基準」の規定により、資料を配布することとしたいと思いますがいかがでしょうか。

【委員】—— 異議なし ——

【榛澤会長】異議なしと認め、入室と資料配布をお願いします。

会議に入りますが、会議録における発言者名については、「審議会等の会議の公開に関する指針の解釈運用基準」の規定により、原則として明記することとなっておりますので、本交通問題連絡協議会においても明記することとしますが、いかがでしょうか。

【委員】—— 異議なし ——

【榛澤会長】異議なしですね。では議事に入る前に、傍聴者の方が写真撮影を希望されています。傍聴要領によると原則できないとなっておりますが、会長の判断により決められるということになっているので、皆様のご意見を伺いたいと思います。多くの審議会は始まる前にとということで写真撮影を許可していますが、どうでしょうか。

【中台委員】使用目的が分かれば差し支えないと思います。

【事務局】傍聴者の中に、学生さんが来ており、活動報告で活用したいということです。

【傍聴者】学生の議員インターシップ等を運営する NPO 法人です。本日傍聴で来ている学生さんが議員インターンシップの活動報告として活用したいということで、撮影の許可を頂きたい。

【榛澤会長】会議の前のみの撮影ということで許可したいと思います。皆さんいかがでしょう。

【委員】—— 異議なし ——

【榛澤会長】本日の議事に入らせていただきたいと思います。本日の議事は「市内公共交通の現況」、「市民等からの要望等」、「公共交通のあり方検討業務」、「その他」でございます。

それでは、最初に議題 1 の市内公共交通の現況について事務局から説明をお願いします。

————— 議題 1：市内公共交通の現況について事務局より説明 —————

【榛澤会長】今の説明に対して、何か質問はありますか。

JR のダイヤ改正で千葉駅発成田行き最終電車が 0:01 から 0:05 に繰り下げされ、千葉駅に 0:04 着の東京駅発千葉行きの快速電車と接続するとのことですが、乗り換えに 1 分の時間しかないが、接続は同じホームですか。

【事務局】到着した向かいのホームから最終電車が発車するようになっています。

【榛澤会長】他に何かありますか。

【中台委員】平和交通の若松四街道線について、乗降客が少なくて営業が成り立つのか心配する声がありますが。

【事務局】運行から 2 週間経った時点で、平和交通にヒアリングを行ったところ、1

日平均 25 人の利用客数となっており、1 便平均では 3.5 人程度となっており、多い日は 40 人程度利用があります。

お昼前後の時間帯で利用が多く、1 便あたり 15 人程度乗車していただいている便もある、という報告を受けています。今後も利用者が増えるように周知していく必要があると考えています。

【中台委員】例えば、停留所の場所を変えてほしいなど、利用者の要望をどの程度キャッチできているのでしょうか。

また、この便利さを覚えた人が、いつまでこの路線を続けてもらえるのかを心配される方もいらっしゃるのですが、最低この期限までは赤字でも運行する、というような約束事はあるのでしょうか。

【榛澤会長】今の件については、次の議題以降でお答えがあると思うので、次に進めさせていただきます。

事務局より議題 2 の説明をお願いします。

————— 議題 2：市民からの主な要望について事務局より説明 —————

【事務局】先ほど中台委員から質問のありました若松四街道線について、バス停位置の変更についての要望や乗車状況によって廃止などもありえるのか、といったことについてですが、運行主体である平和交通から情報は得ていません。また、住民から市に対する要望も現時点では上がっていませんが、今後の調査で、利用者の方からの要望や事業者へのヒアリングを踏まえ、市民の方がより利用しやすいように検討していきたいと考えています。

【榛澤会長】運行の撤退などについて、運輸局としてどこまで認めているのか教えてください。

【池田委員】撤退するときは最低でも 6 ヶ月前に意思を示してもらうことになっています。半年先にならないと撤退できないので、突然撤退ということはありません。利用者に対しては、早め早めに周知してもらうことになると思います。これについては、行政側から事業者に対して要望していけばよいのではないかと思います。突然撤退するというのではなく、撤退を検討するという段階で、行政側に情報を伝えていただくよう事業者をお願いすることが重要ではないかと思います。

【中台委員】平成 13 年の法改正によって、参入、撤退も自由になっています。

平和交通は、将来の乗車人員増をどう考えているのか不明であるのが心配です。あの乗車人員で若松四街道線を継続的に運行できるのであれば、他にも運行してほしいという要望が上がってくるのではないかと思いますので、そのあたりのデータを把握しておくことも重要かと思えます。

【榛澤会長】参考意見ということで整理させていただきます。そのほか質問ありますか。

【吉沼委員】総合公園で大会などが開催されたときに、帰り、駅に向かう場合、停留所が総合公園の向かい側にありません。一番近くのバス停でもかなり歩かないといけない状況です。確か 3 年前ぐらいにスーパーの敷地を間借りして停留所を整備するという話があったと思いますが、実現できないのでしょうか。

千城台駅からみそらに向かうバス路線は、旭中学校に向かう生徒が利用しているのが主ですので、朝と夕方の運行本数が多くても良いと思いますが、昼間の時間帯については、四街道駅から総合公園の運行本数を多くしてもらった方がよいと思うのですが。

【榛澤会長】 いまのは問題提起として捉えてよいですか。事務局何かありますか。

【事務局】 総合公園から駅に向かうバス路線の停留所が総合公園前に整備されていませんが、昨年から、県道 66 号沿いにあるコンビニエンスストアの敷地を借りて停留所が設置できないかバス事業者とコンビニエンスストアが協議している最中です。時間がかかっていますが、今後も状況確認を行っていくようにします。

運行本数の件については、以前から要望はいただいております、平成 21 年 4 月のダイヤ改正により増便となり、少しずつ改善してはおりますが、こちらも今後の課題として考えていきたいと思っております。

【榛澤会長】 他にありますか。

【中台委員】 関連ですが、県道 66 号から国道 51 号への右折車線を確保するために、吉岡十字路から総合公園のあたりまで道路拡幅する予定になっていると思いますが、その拡幅がどこまで伸びるかによって、バス停も設置できると思うので、検討しておいてほしい。

【榛澤会長】 他にございませんでしょうか。

【中台委員】 バス停のベンチ設置については、公費ですべて負担することを考えるのではなく、昔は大型店に一部負担あるいはベンチは全て設置してもらっていたこともあるので、お金がないからできないとは言わずに、是非大型商業施設に一部負担してもらおうことなども含めて考えてほしい。総武線の快速の増発については、陳情に行ったことがあるが、乗降客が増加するといった根拠がないと JR に簡単に断られてしまう。説得できるデータをきっちり、揃えた上で協議することが肝心だと思います。

【榛澤会長】 参考ということで、他に何かありますか。

【吉沼委員】 資料にヨッピーという言葉が散見できるが、市民の皆さんは、普通の路線バスをヨッピーと勘違いしているのではないかと思います。ヨッピーってというのは、市役所を起点に循環して、100 円で乗車できるコミュニティバスのことで、つくし座循環や市の南部で運行しているバスは、全て民間路線であり、利用者を増やさないと廃止されてしまうので、利用者を増やそうという努力を行っている。その中で、つくし座循環線は運行補助を受けていない、吉岡線については年間 700 万円という補助の上限が設けられて運行している状況です。ヨッピーと民間路線バスが混同されないように、市の方でも注意して整理してもらいたい。説明がこれまで足りなかったのではないのでしょうか。

【中台委員】 このあとアンケート調査結果の説明があると思いますが、ヨッピーの利用者は、100 円だから乗るのか、便利だから乗るのか、便利で乗るのであれば、料金格差の是正を図り、路線バスと同じ運賃をとっても良いのではないかと思います。是正ができればヨッピーを走らせる理由がない。

路線バスを走らせればよいということになりますが、今後の方向性として、どのようにして利用者の意向を把握するのが重要ではないかと思えます。その意向を把握するためには、一工夫必要ではないかと思えます。

————— 議題 3-1：ヨッピー利用状況について事務局より説明 —————

【榛澤会長】 議題 3-1 について質問はありますか。

【中台委員】 バスに乗込んでアンケートを実施したとありますが、例えば、路線バスの初乗りは 160 円ですが、ヨッピーの運賃を 160 円にしても利用しますかという風に聞かないと、便利だから乗っているのか、把握できないと思えます。

【事務局】 アンケート実施については、趣旨、目的を書いたものを併せてお配りしており、その中で適正運賃についても、民間路線バスについては初乗り 160 円ですが、ヨッピーについては、現行 100 円ですが適切な運賃はいくらですかという設問にしています。

【中台委員】 この地域のヨッピー導入のきっかけは、路線バスが廃止になったからで、全く既設のバス路線がなかったのです。だから本当に助かっているという感覚であれば、運賃の問題ではないという意見も出てくる可能性があると思えます。ですから、そのあたりの把握ができるかということです。

【榛澤会長】 今後の検討の参考とさせて頂くということで、他にございませんか。

【芦沢副会長】 ヨッピーの運賃を変えたときに利用がどう変化するのか、ということ把握することが必要です。それを把握するためにアンケートを実施するということになっていますが、もっと詳しく調査していく必要があると思えます。自由意見で『助かっています』『感謝しています』という意見が多くあるようですが、例えば、ヨッピーがあるから市街地に外出する頻度が増えているとか、そのことが中心市街地の賑わいにつながっているとか、もう少し広い観点からの考察を行い、具体的に効果が読み取れると良かったのではないのでしょうか。もう少し、中心市街地の活性化に繋がっているような意見を聞きだすようなヒアリングをこれからは実施してもらえればと思えます。

また、細かいところですが、自動車を持っている世帯とそうでない世帯で区分した分析ができているか、つまり、車がなければどうしてもバスを利用せざるをえない。逆に自動車を持っている人はヨッピーがなくなったら自動車利用にもどってしまう可能性など、変化の見通しをつけるために必要と思えます。

【中島委員】 資料 3-1 ヨッピー利用状況アンケートと記載しているが、資料 3-1 別紙では市内循環バス利用状況アンケートと記載しているため、ちゃんと「ヨッピー」と記載するべきではないか。アンケート結果を見ますと、利用者にヒアリングすれば、安くて最高であるという回答が返ってくるのは、当たり前ではないか。市からいくら補助していますとか、他の路線は初乗りいくらとか、そういったことを前提として聞かないといけないのではないかと。それでこの意見を参考に検討されたのでは。利用者だけではなく、利用で

きない人も含めてアンケートを実施しなくてはいけないのではないでしょうか。

【榛澤会長】ひとつ言わせて頂きますが、これは利用者に対してアンケートを実施したもので、これから市民全体を対象としたアンケートを実施するということになっています。

【中島委員】資料 3-1 別紙のタイトルにヨッピーと記載すればよいのに、何故、市内循環バスと記載しているのか教えてほしい。

【事務局】資料 3-1 については、あくまでもヨッピー利用者へのアンケート調査でして、利用者視点での分析とさせて頂いている。アンケートに際しましては、民間バス路線の初乗りは 160 円であること、毎年市が運行補助しているといったことにつきましてもお知らせしながら実施しています。

それから、資料 3-1 別紙の方で「ヨッピー」という表記が漏れている点につきましては大変失礼いたしました。

【吉沼委員】ヨッピーの運賃収入で賄い切れない分については、税金で運行補助をしており、13 年度から 17 年度は減価償却で補助が多くなっています。18 年度以降は補助金が下がっているが、減価償却がなくなった分なので、収支が良くなっているというわけではありません。ここ 10 年の利用者数を見ても、これから極端に利用者が増えるというのは難しいと思うので、断腸の思いで、運行本数を減らすとか、ルートを変更するなどを考えないと運行補助を減らすことはできないのではないかと思います。運行補助金を減らす方法としては、運賃を上げるか、運行ルートを変更するかしないと改善されないと思います。住民の意見ばかり聞いても改善されないのではないのか。運賃を 160 円にしてしまえば、補助を減らすことができる。市が補助している金額をもっと住民に知ってもらうべきである。160 円に上げることを理解してもらわないと、税金は苦しくなるばかりだと思います。

【榛澤会長】そういったことを、今後、公共交通のあり方ということで検討していくことになっています。

【事務局】資料 3-2 で説明しますが、市全体を対象とした 3,000 世帯アンケートで、ヨッピーを利用していない人の視点も含めて聞いていくこととしています。本日は日程の関係上、ヨッピー利用者アンケート結果のみをお示ししているところです。

【榛澤会長】先に進めさせて頂きたいと思います。

—資料 3-2:市民アンケート計画、3-3:今後の業務の進め方について事務局より説明—

【榛澤会長】アンケートの調査項目について、この会議以降にも意見が出てくると思いますので、その場合は 8 月 5 日までに政策推進課まで、ご意見を頂ければと思います。どうしてもこの場で聞いておきたいことだけご意見を願います。

【中台委員】アンケートで初めてヨッピーを知る人もいると思うので、ヨッピーの課題を記載するなどして、市民に正確に理解してもらおうといった工夫が必要だと思います。

また、乗り合いタクシーについても同様に、正確に理解してもらうために

詳細な説明が必要だと思います。

あと、ヨッピーを知らなかった人は格差をすごく意識すると思いますよ。高齢者が多い地域などでは、我々のところは普通の路線バスで、ヨッピーは障害者無料、運賃も100円均一ですよ。そういったことが可能であれば是非やってほしいという意見が出てくると考えられるので、十分検討して実施してほしい。ヨッピーのことを市民がどう理解するかを十分把握し、どう説明して行くかというのを考えないとアンケートの結果の整理に問題が出るのではないかと思います。

【榛澤会長】参考にさせて頂きたいと思います。他に何かありますか。

【芦沢副会長】サービスは良いに越したことはないのですが、それによる費用をだれがどう負担するのかをアンケートの設問でズバリ聞くこと。税金で負担して良いと考えるのか。あるいは、利用者だけで負担するべきなのか。それを聞く必要があると思います。

【吉沼委員】10数年前、ヨッピー導入時に会長が基本調査を実施していると思いますが、そのとき四街道市は横の繋がりがなかったので、そこにコミュニティバスが必要だという調査を実施されていたと思いますが、今回改めて調査を行う必要があるのでしょうか。

【榛澤会長】その調査は、大学の研究で実施したものです。また、その調査から10年が経過して、環境変化、市民の方も変わってきています。高齢者も増えて、意識も変わってきていると思いますので、ここで改めて調査を行った方が良いと思います。

【十二里委員】このアンケートはヨッピー利用者のみを対象として実施するのですか。ヨッピーの恩恵を受けていない地域も実施しないといけないのではないのでしょうか。

【榛澤会長】市内全域を対象に3,000世帯を対象にアンケートを実施しますので、ヨッピーの恩恵を受けていない地区の方の意見も聞いていきます。

【中島委員】ヨッピー利用者の意見で駅まで行きたいという意見が多いのに、何故行けないのでしょうか。

【山原委員】民間路線バスの最低運賃が160円で、そこに100円バスがあると、利用者がそちらにシフトしてしまう。そうすると、バス事業者の収益に関わってきますので、駅に乗り入れないというルートになっています。

【中島委員】分かりました。

【芦沢副会長】税金投入して100円で運行しているのに、駅に入れないということで利用者が減少しているという矛盾が生じているという状況です。

【中台委員】ヨッピーはあくまでも試行であるので、いつ総括して見直しするのか。市民に対しても試行段階であるということを理解してもらうべきです。駅に入れなくてもそういう条件で試行を始めたということです。

【十二里委員】アンケートに免許の有無とあるが、高齢者に免許返納を推進した場合、どの程度返納してくれるのかを確認したほうが良いのではないのでしょうか。

【吉沼委員】確か、まちづくりの検討会の話題で、自宅に自動車があるが、運転できる

のは旦那さんだけなので、奥さんは外出するときにタクシーを使わなければならないという話があったと思う。そのときに、運賃が多少高くてもよいので、路線バスを運行してほしいという意見が結構ありました。

ヨッピー自体は1日 800 人乗らないと採算が合わないという話であったと思います。ですから、つくし座路線の場合は、運賃 160 円で 500 人乗らないと採算が合わないということです。今では何とか1日あたり 400 人までこぎつけている状況です。今後、ヨッピーの利用者が増える要素があるのであれば、現状を把握していくのも良いと思いますが、そうではなく、アンケートであまり細かく聞いていくと、市がヨッピーと同じようなサービスのバスを運行してくれると期待してしまうのではないのでしょうか。

【榛澤会長】アンケート内容については、いろいろ意見はあると思うが、実施することについては賛成して頂けますか。

【吉沼委員】アンケートを実施するのは良いと思うが、ヨッピーに 10 年間、1 千数百万円も投じているので、見直しを行うといった視点でアンケートを実施するということがないと、安くてよいものを導入してほしいという意見が多数になって収拾がつかないのではないかと思います。内容以上に、見直しを行うという背景を十分に周知することの方が重要ではないのでしょうか。

【榛澤会長】それについては、先ほども説明があったと思いますが、運賃の見直し、事業仕分けで問題になったということで説明があったと思います。習志野市の場合ですと、実証実験ということで、4 路線で実証運行を行っており、継続の条件として、乗車率が採算ラインの半分までいかないと廃止するという条件で実施しました。また、乗車率が低い場所については廃止しますということを自治会に理解してもらって、実証運行しましたので、四街道市においても同じように実証運行を行ってみたいと分からないことがあると思います。

【中台委員】今のヨッピーは車椅子が乗せられるようにリフトを装着しているので、初期費用、メンテナンス費用が通常よりもかかっています。一方で福祉タクシー、福祉バスなどもあるため、福祉タクシーなどで代替することによって、初期費用を低く抑えることも可能なので、そういったことも検討して欲しいと思います。

【榛澤会長】いろいろ、ご意見があると思いますので、そのあたりについては、後日、事務局に寄せていただくこととして、先に進めさせて頂きたいと思います。

————— 議題 4：その他について事務局より説明 —————

【榛澤会長】何かご質問はありますか

【池田委員】委員の数は 15 名とされていますが、現在想定している委員がすでに 15 名となっており、市長が指名する者は入れることができないので、余裕をもった委員設定とした方が良いのではないのでしょうか。

【事務局】市の審議会等の指針に従いまして、原則 15 名とさせて頂いております。ご指摘いただいたとおり、現在想定している委員で 15 名となっていますが、複数名想定しているところで欠員が出ることもあると考えていますので、市長が指名する者の規定を残したものです。

【榛澤会長】何かございますか。なければ、これで終了とさせていただきます。

以 上